

環境・産業期待高まる

先進愛知20カ所稼働

視点 2019

来年 富山市に水素ステーション

水素ステーションが2020年、富山市で開業する。二酸化炭素を排出しない「究極のエコカー」と呼ばれる燃料電池車（FCV）に水素を補給する施設だ。これまで4大都市圏を中心に整備され、北陸では初となる。水素社会は県内に到来するのか。5月に先進地を訪れ、課題を探った。
(経済部・浜浦敬)

全国の水素ステーション



富山、新潟、群馬、鹿児島は2019年度新たに採択

愛知県庁の駐車場の一角に水素ステーションがあった。荷台部分に水素充填装置を備えたトラックが止まっている。週2日だけ稼働する「移動式」だ。営業日は平均約8台の利用がある。

青色のボディのトヨタ「MIRAI」が入って来た。ホンダの「クラリティ、FUEL CELL」と共に実用化された車種の一つ。中部運輸局の保有車という。「フオーン」。日本移動式水素ステーションサービス（東京）の作業員が水素を補給し始める。トラックのエンジンがうるさく、水素を圧縮する装置の駆動音が、充填はあっという間に完了。23.4秒（3分54秒）の時間

と約4200円（3・5L）の料金が表示された。急速充電でも数十分かかる電気自動車（EV）との違いは補給の速さだ。ただ次の補給まで水素の圧縮に時間がかかり、運転充填はできない。同サービスは3台並ぶと3台目の入まで1時間かかると話した。

MIRAIに同乗し、庁舎の周りを走行した。モーターは動いているがどうも分からないくらい静かだ。コーナリングも滑らか。停車後、車体の後ろに回ってみた。排気口やマフラー（消音器）がない。

県内には水素関連の企業が少なく、ビジネスチャンスになる可能性がある。グループ会社が水素ガス製造拠点を持つ北設（富山市）は、水素の簡易充填機を鈴木商館（東京）と共同開発。この充填機を搭載したFC（燃料電池）フォークリフトを伏木海運運送（高岡市）が導入している。

タカキセイコー（同）はホンダのFCVに部品を納入。トナミホールディングスなどは県内外7社が出資するアルハイテック（同）は、廃アルミから水素を生成する装置を開発するなど、取り組みはさまざまだ。

県内企業に商機

FCVは電気自動車（EV）同様、走行中に二酸化炭素を排出せず環境に優しい。問題は水素の製造・調達方法。中部国際空港（愛知県常滑市）のステーションでは、太陽光発電によって水を電気分解し水素を生成し、FCフォークリフトに補給していた。化学工場な

穴が開いており、水が漏っていた。車内で水素と酸素を反応させて電気をつくる燃料電池は、「電池」というよりは「発電設備」のようなものだ。

愛知県は、国内の3分の1のシェアがある自動車・部品産業の集積地。FCVの保有台数も全国一だ。次世代自動車振興センター（東京）によると、FCVの補助金交付（2017年度時点の合計）は愛知が736台で、東京417台、神奈川192台と続く。国内に約1100あるステーションのうち、愛知では20カ所が稼働。「移動式」が4カ所、ガソリンスタンドのよう

に据え付けられた「固定式」が16カ所あり、全体で1日平均6・8台が利用するという。国は25年に300の設置目標を掲げている。愛知県産業

科学技術課の課長兼部長室は一環だけでなく、産業振興の観点で取り組みたい」と言う。ガソリン車から次世代車への転換を見据え、車の完備メーカーにつながる多くのサプライヤー（納入業者）にも成長を促す考えだ。

よりステーションとFCVの数を増やす必要がある。名古屋市のまちなかの「固定式」ステーションで1時間待つてみたが、FCVは1台も来なかった。FCVは公用車や社用車が多く、またシフト的